令和５年９月２９日（金）
練馬区立開進第四小学校
校　長　　関　川　　健

開四小だより

１０月号

地域の中で

校 長　関川　健

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉があるように、ここに来てようやく厳しい残暑も少し落ち着いてきた感があります。朝晩が涼しいと気持ちがほっとします。ただ、インフルエンザやコロナの感染症の広がりには今しばらく注意が必要な状況です。

さて、９月初旬のことなのでもう一月近く経っていますが、今年は４年ぶりに開四小の地域の町会（羽沢町会、仲二町会）のお祭りが催され、子供神輿や山車が町内を練り歩きました。本校の児童も、そんなに数は多くありませんでしたがそれらに参加して、山車を曳いたり神輿を担いだりしていました。９月と言えど両日ともまだかなりの暑さの中でしたので、参加するにはそれなりの覚悟が必要そうでした。

私事になりますが、私は子供時代、お祭りの神輿担ぎが大好きでした。小さい頃は母親に付き添われて山車を引っ張って楽しんでいましたが、小学２年生の時、近所に住む２歳年上の幼馴染みの子に、「一緒にお神輿を担ごう。」と誘われてからすっかりはまってしまいました。「ワッショイ、ワッショイ」と大きな声を出しながら町内の道を練り歩くのはとても気分が良かったです。先頭を行く露払いのおじさんがチャリン棒（金属の杖）のいい音を響かせて、道路を優先的に通れる特別感が嬉しかったのを覚えています。当時、神輿担ぎは結構人気があったので、自分が好きな場所（一番前）で担ぐために、随分早くから神輿の担ぎ棒に自分の手拭いを巻いて場所取りをしていました。神輿担ぎは汗びっしょりになって疲れます。途中で何回か休憩があり、その都度ジュースを飲んだり梨やリンゴを丸かじりしたりしました。終わった後にはお菓子の詰め合わせをもらいました。多分神輿を担ぎに行くめあてはそこだったかもしれません。６年生までずっと参加していたと思います。今思えば、町会のおじさんやおばさんたちが私たち子供の面倒をよく見てくれていたことが分かります。

私の教員生活は今の練馬区で７区市目になりますが、その経験の中ではこのように町会のお祭りが今でも行われているのは練馬区だけです。せっかくそんな地域に生まれ育っているのですから、本当はもっともっとたくさんの子供たちが神輿担ぎなどに参加すればよいと思いますが、こういうことは親が促すものではなく子供が友達と一緒に自発的に行動するものかもしれないですね。ちなみに、お祭り翌日の全校朝会のときに、羽沢町会と仲二町会のお祭りの話をしました。自分が住んでいる（育っている）地域に愛着をもってほしいし、自分たちは地域の方々から見守られ、地域の方々は皆さんが無事で元気に成長していくことを楽しみにしているのです、といった趣旨です。

私は、「地域に開かれた学校」「地域とともに歩む学校」を学校経営計画に掲げています。ここではお祭りのことだけを取り上げましたが、様々な機会で地域の方々との連携を大切にして、開四小の子供たちをより良い未来に向けて育んでまいります。皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

お知らせ

現在休職中の教諭が、１０月から校内で復帰に向けた研修を行います。ご承知おきください。